

オープン市場短信 (2014年9月)

2014.9.5

◆ 8月のCP市場動向

8月のCP（短期社債）月末残高は、17か月ぶりに前年同月比プラスで15兆5354億円（前年同月比+3892億円）となり、2か月連続で15兆円台となった（前月比+1939億円）。

一般事法では、久しぶりに発行を行った企業も散見された。一部の企業では、CPによる資金調達を 선호する動きもあり発行増となった。また、各業態ともに若干増加する動きとなっていた。

発行レートの動きについては、足元現先レートの高止まりが影響したことも有り、全般的に上昇地合いとなった。最上位格付け銘柄では0.07%台後半から0.099%での出会い。一般銘柄（1格）についても0.09%台前半から0.012%台前半での出会いであった。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄（a-1+格）出会いなし。一般事法（a-1格）0.0960%~0.1230%。
その他金融銘柄（a-1格）0.0920%~0.1700%。

【業態別残高内訳】

（単位：億円）

業 態	8月末残高	7月末残高	増 減
一般事法	47,361	46,616	745
その他金融	59,670	59,653	17
金融機関	32,682	31,786	896
政府系金融	150	0	150
銀行等	13,746	13,711	35
証券	18,786	18,075	711
ABCP	15,640	15,359	281
計	141,457	139,703	1,939

（注：買入消却分含む）

【格付け別の発行レート】

8月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1ヶ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+(一般事法)	0.0770% ~ 0.0990%	—— ~ ——	—— ~ ——
a-1 (一般事法)	0.0940% ~ 0.1115%	0.0960% ~ 0.1110%	0.0960% ~ 0.1230%
a-1+(リース銘柄)	0.0818% ~ 0.0970%	0.0860% ~ 0.0870%	0.0970% ~ ——
a-1 (リース銘柄)	0.0890% ~ 0.1070%	0.0930% ~ 0.1690%	0.0920% ~ 0.1700%
a-2	0.1000% ~ ケ0.25%	0.1000% ~ ケ0.25%	0.1000% ~ ケ0.25%

《CPオペ》

CP買入オペは、5日・18日・25日と3回実行され、各回4500億円にてオファーされた。

5日のオペでは、応札可能銘柄も多くディーラーの売却ニーズが強まり、按分・平均落札レート共に前回比上昇した。18・25日のオペにおいては、ショートターム物等の売却ニーズが強くなり地上げとなった。25日の按分・平均落札レートは0.093%・0.095%となり、ともに年初来一番高いレート水準に上昇した。

【月末オペ残高：2兆2627億円】

日銀 CP等買入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
8月5日	8月8日	4,500	12,475	4,268	0.092%	0.093%	54.5%
8月18日	8月21日	4,500	10,349	4,431	0.092%	0.094%	52.7%
8月25日	8月28日	4,500	8,433	4,123	0.093%	0.095%	58.8%

《ABCP》

ABCPの月末残は、前月比281億円の増加となり、1兆5640億円であった。前年同月比では1932億円の減少となった。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、8月末時点における発行登録企業数は、TOKAIホールディングスが1社あり、494社となった。通算の発行企業数は、変わらず536社であった。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、今月も0.085%~0.09%台後半でのワイドレンジの出合

いとなった。新発物の発行増とレポレートの上昇地合いに反応し、0.09%台での出合いが多かった。

◆ 9月のCP市場動向

9月のCP償還額は約4兆700億円で、前年同月の償還額（約4兆7200億円）を下回っている（除く、相対発行分・金融機関発行CP・ABC P）。

今月の発行動向は、例年同様一般事法が中間期末の有利子負債圧縮目的で、期越物の発行を抑え9月末日償還や月中物中心の発行を行うだろう。9月末日償還は、8月末時点では1兆6千億円程度となっており、今後の発行を含めると2兆3千億円程度となる見通し。

発行レートについては、高格付け銘柄では先月同様投資家ニーズが強く低位安定推移と思われるが、一般銘柄の月中物については0.10%前後と横這いからやや上昇地合い。3M物の発行レートについては、最上位銘柄では0.08%台半ばから0.09%割れでの出合いを予想する。また、一般銘柄では、0.090%台後半～0.12%台を予想。その他金融・リース銘柄（a-1格銘柄）では、0.09%台後半～0.170%台を予想する。

《CPオペ》

今月は、3日（実施済）・16日・25日と、計3回の入札が何れもオファー額5500億円にて実施される予定（8月は、計3回：各回4500億円実施）。

5日のオペは、前回オペと比べ按分レート・平均レート共に0.1BP低下した。一回当たりのオファー額が増加となったが、ディーラーの売却ニーズが強く、按分レート・平均落札レート共に大きく低下する動きとはならなかった。次回以降については、足元現先レートと応札可能銘柄如何によるが、期末対策で新規発行が減少することが予想されるため玉不足が生じると思われ、横這いから低下地合いとなるだろう。

月末オペ残高は、2兆円2千億円前後を予想する。

《CP現先市場》

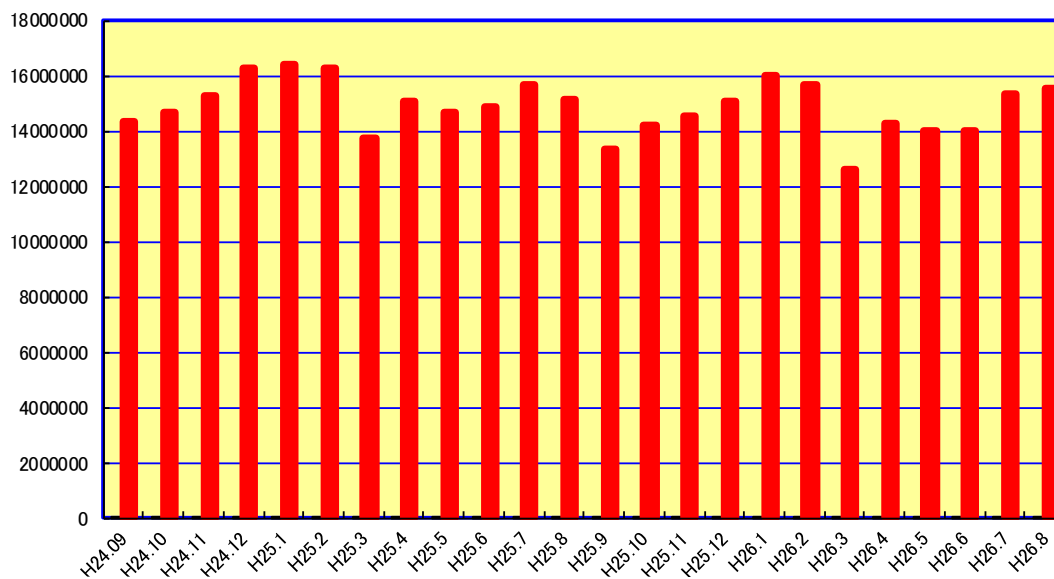
S/N物のレポレートは、先月同様0.05%台～0.09%前後でのワイドレンジを予想する。インターバンクレートは、引き続き変化が少なく0.065%～0.075%近辺での推移であろう。CP現先レートは、先月同様0.08%台半ば～0.09%台後半でのワイドレンジでの出合いを予想する。

参考資料

短期社債月末残高 (24年8月～25年7月)

発行登録企業：494社（発行実績あり536社）

（過去2年間の残高を表示）



8月末発行残高ベスト20

8月末発行残高上位20社

(単位:百万円)

	発行企業名	8月末残高	7月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	806,900	826,600
2	三菱UFJリース	731,400	776,900
3	三菱UFJモルガンスタンレー証券	660,400	621,000
4	東京センチュリーリース	614,200	611,500
5	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	512,260	469,650
6	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
7	JXホールディングス	451,000	443,000
8	新日鐵住金	431,000	409,000
9	みずほ証券	416,800	417,100
10	三井住友信託銀行	370,700	399,200
11	興銀リース	333,000	333,300
11	JA三井リース	333,000	332,000
13	芙蓉総合リース	320,700	311,700
14	SMBC日興証券	298,000	312,000
15	東 芝	276,000	241,000
16	エイベックス・ファンディング	269,610	262,810
17	大和証券	259,360	218,260
18	ジェイエフイーホールディングス	238,000	250,000
19	日本証券金融	232,000	201,000
20	三菱商事	221,000	202,000

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会